上一色中学校 教育目標

- 自ら学ぶ生徒
- 心身を鍛える生徒
- 社会をつくる生徒

教育目標を達成するための基本方針

- ・「心の教育」に重点を置き、すべての生徒が安心して通える学校づくりを実践する。
- ・学力向上を目指し、基礎・基本の定着を徹底するとともに、生徒の興味関心や個性に応じた授業改善を行う。
- ・全教育活動において、生徒一人一人の「自己肯定感・自己効力感・自己有用感」を高め、生きる力をはぐくむことを目指して指導を行う。
- ・学級・学年間の情報交換を密に行い、共通理解のもと全校体制で健全育成に努める。

めざす生徒の姿

- ・生涯自ら学ぼうとする気持ちを持ち続け、あらゆる活動に意欲的に取り組む生徒
- ・知識や技能等を確実に習得し、知的好奇心を自ら喚起し、学習に意欲的に取り組む生徒
- ・健全な心と体を育み、道徳的な実践ができる生徒
- ・心と体を鍛え、困難に出会ってもくじけない生徒
- ・社会とは無関係で生きることができない人間の本質を自覚し、社会のルールを守る生徒
- ・他者との人間関係力を高め、協働し、社会に役立とうとする気持ちを持ち行動する生徒

めざす学校像

「上一色中にきてよかった！」という

満足感に満ちあふれた学校

江戸川区教育委員会 教育目標

- こころ豊かにたくましく 教育の江戸川区
- 自他を尊重し、人間性豊かで道徳心のある人
- 自ら学び実践し、共に教え合い、育ち合う、創造力と協調性豊かな人
- 将来の夢をもち、個性豊かに、持てる力を発揮して、進んで社会に貢献できる人

上中スローガン

「学力・体力・豊かな心」

「文武（部）両道」

道徳心の育成

- ①教育活動全般を通して、「人権尊重」の精神に基づき、自他を尊重する態度を醸成し、思いやりの心を育むことで、安心・安全な学校づくりにつなげていく。
- ②全校体制による「特別の教科 道徳」の授業改善とその充実に向けて、教科書を使用した授業を推進し、「考え、議論する道徳」の授業を実践するとともに、適正な評価や指導法について研修を深める。
- ③地域・家庭と連携した道徳教育を実現するために、道徳授業地区公開講座を有効に活用し、全学級の道徳の授業を公開する。学校・家庭・地域における道徳教育のあり方や連携について相互の理解を深め、協力体制を整える。

生活指導、安全指導

- ①基本的な生活習慣を身に付け、規範意識を向上させるため学校生活においてルールを守る気持ちの育成、社会人としての常識の会得に努める。
- ②「挨拶はいつでもどこでも何度でも」を合言葉に「挨拶」を重要視。社会性を養うとともに、好ましい人間関係を築く。
- ③全教職員で情報を共有し共通理解を図り、全校体制で生活指導に取り組む。また関係諸機関との連携。定期的に派遣されるスクールソーシャルワーカーを活用し、解決できるように組織的に取り組む。
- ④スクールカウンセラーやサポート教室等の有効活用を図る。いじめアンケート、年2回以上実施する二者面談と併せて学級や生徒の状況を敏感に察知し、いじめや不登校の未然防止や早期発見・早期対応に努める。
- ⑤初期対応、厳しさと温かさのある生活指導を心がける。また、絶対に体罰に頼らず、受容的、共感的な態度で指導を行う。
- ⑥事故にあった生徒及び保護者の気持ちを十分に考えて対応。加害生徒がいる場合にもその生徒及び保護者の気持ちを十分に考え対応。
- ⑦全教職員の危機管理に対する意識を高め、地域・関係機関等との連携を大切にし、実践的な避難訓練を実施する。

確かな学力の向上

- ①確かな学力の向上を目標に、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の取組む。わかる授業、成就感・達成感の感じられる授業を実践。
- ②数学・英語では習熟度別授業・少人数授業の充実。きめ細かい指導、学力向上に努める。英語ではスピーキングを重視するとともに、ALTのより効果的な活用を図る。
- ③国語・社会・数学・理科・英語を中心に東京ペーパードリルの活用や「江戸川っ子 study week！」を設定。他でもタブレット端末等を活用し、適切な課題を与え、家庭学習の習慣を定着させる。
- ④基礎学力の向上を目的とした補習や質問教室、定期的な小テスト及び学習コンテンツを実施、再テストも計画的に実施する。
- ⑤校内研修の充実、OJTの促進や、年2回実施する生徒による授業評価の分析と反省を行い、教員一人一人の授業力の向上を目指す。
- ⑥一人一台端末環境に対応し、ICT機器を適切・安全に使いこなすことができるよう、情報モラルの向上やネットリテラシーなどの情報活用能力を高める。その有効な活用方法について研修、及び実践を進める。
- ⑦急速に情報化が進展する社会の中で、情報や情報手段を主体的に選択し活用していくための情報活用能力を育成し、言語能力や課題発見・解決能力の向上へとつなげる。

読書科、キャリア教育

- ①図書館司書を活用し、図書館の利用について周知し、読書科の調べ学習を中心とした探究的な学習に結びつけ、読書科コンクール参加につなげる。
- ②読書科では1年生から計画的に調べ学習を行い、の集大成として、3年生では「卒業研究」を作成する。文化祭の展示や発表会等を実施して、プレゼンテーション能力を育成する。
- ③キャリア教育では、職業調べ、上級学校調べ、進路講話など学年の段階に応じた学習を充実させ、3年間を見通した計画的な指導を行うことで、将来についての夢や希望をもたせ、自己実現に積極的に取り組む姿勢を育てる。
- ④第2学年では、チャレンジ・ザ・ドリームにおける職場体験を通して、働くことへの理解を深めるとともに、地域の担い手となるきっかけとして関係を築いていく。
- ⑤キャリア教育における学習内容はキャリアパスポートにファイリングし、小学校・高校との確実な引継ぎを行う。

部活動、体力向上、食育

- ①文武（部）両道を実践し、バランスの取れた人間の育成に努める。
- ②国・都・区のカイロラインに基づき、中学生にとって望ましい部活動の在り方を実践し、生徒の潜在的能力を育て、幅広い人格形成に役立てる。
- ③外部人材の積極的な活用を進め、生徒のスポーツ・芸術文化等の活動環境を整えていく。レクリエーションや体力づくりを目的とした部活動を存続させ、運動が得意でない生徒にも、スポーツに親しむ機会を与える。
- ④保健体育の始業時に「上中トレーニング」として行う補助運動やコーディネーショントレーニングの内容をさらに充実し基礎体力の向上に努める。
- ⑤保健体育の授業に加え、運動会等の体育的行事をきっかけとし、体力向上に対する意識を高めさせ、日々の実践につなげていく。
- ⑥安全と礼法に重点に武道の授業を実施、武道の技術を習得するとともに伝統的な相手を尊重して対戦する精神を育む。
- ⑦食育を推進し、学年や学級単位での食育授業を組み込む。また、食の安全のため、衛生管理の徹底、アレルギーのある生徒への適切な対応の共通理解等に学校全体で努める。

特別活動

- ①学校行事や各学年行事においては、協力することの大切さを学ばせるとともに、自己肯定感・自己効力感・自己有用感を高めることを目指し、意図的・計画的に協働・責任・思いやりの精神を醸成するよう指導を行う。また、内容を精査し効果のあるスリム化を進めていく。
- ②生徒会活動や学級活動を通して、帰属意識や仲間意識を高め、社会性を養うとともに、自律の意識をもたせ、自主性が育成できるように助言をする。あわせて、それぞれの活動の場面で一人でも多くのリーダーが育成できるように努める。

特別支援教育

- ①特別支援コーディネーターの配置あるいはそれに代わる教員を各学年に配置するとともに、特別支援教育推進委員会を定期的に開催し、その報告を通して支援が必要な生徒についての情報共有と共通理解を図る。また、職員会や研修会を通して、特別支援教育についての教員の理解を深め、全校体制で組織的な対応を進める。
- ②巡回指導教員や巡回相談心理士と協力し、特別支援教室の積極的かつ柔軟な活用を進めて支援が必要な生徒の自己理解を促進し、より効果的な支援へと導いていく。
- ③訪問活動や生徒会活動、文化祭交流などの直接交流や間接交流、及び副籍制度を活用した都立鹿本学園とのかかわりを通して、インクルーシブ教育の推進を図り、共生社会の実現に向けた姿勢を育てる。

保護者・地域との連携

- ①保護者・地域へ、学校便りの発行、ホームページの更新、連絡メールの活用等を通して情報公開を推進し、信頼される学校を目指すとともに、地域内小学校との連携を強化し、児童・生徒レベルでの交流活動を取り入れる。
- ②PTA活動や地域行事への参加など、保護者や地域の方と協力し合いながら生徒の健全育成に努め、意見や要望等にも誠実な対応を心がける。
- ③学校評議員会の充実、学校公開の質の向上、地域行事への生徒の参加等に積極的に取り組み、開かれた学校づくりを一層推進する。

教職員の職務

- ①教職の基本となる授業を大切に、生徒が意欲を持ち、わかる授業を構築するため、授業力向上に係る研修を積極的に進めるとともに、自らの使命と職責を常に自覚し、服務規律の厳守を徹底する。
- ②主幹、主任教諭を中心に組織を構築し、報告・連絡・相談を密に行い進行管理を徹底して、教育課程の実践を進めていく。
- ③教職員組織編成を再構築し、仕事内容を明確化するとともに、引継ぎの為の確実な資料のデータ化と保存を進め、異動があっても職務がストップしない組織を作り上げる。
- ④SDGs「8番 働きがいも経済成長も」を意識するとともに、教員の働き方改革を一層進めるにあたり、学校LAN等を有効活用し時間を生み出す。また、部活動ではガイドラインに則って、平日1日、週休日1日の休養日を設定する。さらに、年休や各種休暇の積極的な取得を推進するとともに、月1回の定時退勤日（リフレッシュデー）に加えて、各自で設定するセルフ・リフレッシュデーを月1日設け実践する。